

キャラクター名
書端 郊 (カヅハタ・ハズレ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	UGN鳥戸市支部所属カトル
	ソラリス					
オプション			年齢	17	性別	男
覚醒	渴望	衝動	闘争	初期侵食率	33	%
出自	名家の生まれ	経験	心の壁	邂逅	忘却	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	1	1	1		3	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	6	0	0			6	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
両手槍	白兵	3r+3	3	10		データは両手剣
蜻蛉切の力	白兵	3r+3		12(14)		バグでバグ使用が2、バグで3r+7、命中するとそのシートの武装甲値-2(100%超えると-4)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
奇妙な隣人(ストロングネバー)	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 12 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト/ソラリス	2							
効果:								
狂戦士	3	5	Xジャー	視界	単体	自動	80%	
効果: 次に行うXジャーアクションのクリティカル値+1(下限5)、判定グイス+ [LVx2] 個								
女王の降臨	1	5	セットアップ	至近	自身	自動	ビ°17	
効果: Xジャーアクションかつ自動成功のフィールドひとつをセットアップで使用する、他のセットアップフィールドと併用不可、1シリアにLV回復								
腐食の指先	1	2	Xジャー	武器	単体	白兵/射撃		
効果: 攻撃が命中した場合、そのシートの間、対象の装甲値+ [LVx5]								
リジツ: ミネラル	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果: そのシートの間、装甲値+ [LVx2]								
レゲイドスマイト	1	3	Xジャー			あらゆる攻撃	RB	
効果: リジツ: ○○の効果中のみ使える。攻撃力+ [LVx2]								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「もっと寄越せ、蜻蛉切。強さの概念を。忠勝の力を」『ええで!』
「俺は勝つ。他者の力を利用してでも!」『せやな!』
「名槍蜻蛉切の【予備】と呼ばれたこの1本と、兄の【予備】として扱われたこの俺の親和性は高いぞ」『それな!』
「お前は誇れ。胸を張れ、力を感じろ。槍名人の俺の隣に立つのは、俺と同じ強者のみ。すなわち、お前は強い」『ほんまそれ!』

代々特別な槍術を受け継ぐ家系に生まれ、槍術に優れた兄を持つ。郊自身はまったく才能がなく「ハズレ」としてUGN鳥戸市支部のカトル養成施設へと送られた。せめてもの銭別にと実家から渡されたのが、郊のみが意思疎通し会話できる直穂の槍、「蜻蛉切・備」。かの有名な「蜻蛉切」の、遺失していた二本目を自称している。
ソラリスとしての強い暗示能力と、意思を持つ槍とのシリア率の高さから、本多忠勝の生まれ変わりや自称できるほどまで高められた優れた槍の技術を獲得している。槍の技術の根源は全て蜻蛉切・備の持つ槍名人概念の力に頼った、他力本願の槍使いである。

実家に対して恨みは特になく、どちらかというところ「強くなって貢献したい」という意識のほうが大きい。
安調市の文目中的ことは勝手にライバル視している。
自分以外に強さの概念を暗示として譲り渡すこともできる。「俺は強い、強い俺と一緒に戦えるのは強いやつのみ、そしてお前は俺と一緒に戦っている、つまりお前は強い」というかなりざっくりと、かつ不条理な暗示を他者にかける。不条理なのでちょくちょく嫌がられる。